

広報

# かみす

2026年  
1/1・15  
No.450

Kamisu public relations

職人の手仕事とまちのヒストリー

## 籠を編む



手にしているのは、市内の職人が丁寧に編み上げた籠製バッグ。籠製品の魅力とともに、漁業のまちの歴史との、深いつながりを紹介します。(写真:手子后神社)

### Pick up

- 市長・議長から新年のごあいさつ ..... P2~3  
スマホでラクラク確定申告 ..... P8  
将来市内で活躍してくれる医師や看護師をサポート ..... P14



広報かみすが動き出す  
[COCOAR]アプリをダウンロード  
し表紙にスマートフォンをかざしてください。詳しくは12ページ



市公式  
LINEは  
コチラ





神栖ディスカバリー

File  
31

# 篠を編む

職人の手仕事とまちのヒストリー

昔から暮らしの中で活用されてきた篠製品。神栖市には、茨城県伝統工芸品に指定された名品を作り続けている工房があります。今回は、洗練された工芸品としての篠製品の魅力とともに、漁業のまちの歴史との深いつながりなど、篠の世界に迫ります。



波崎漁港



美しい編み目が特徴



38歳で退職し、全国の百貨店を回つて籐製品の営業をおこなった後、親子で一緒にバッグ、枕、籠、いす、ベッドなどの製品づくりに携わってきました。

「当時は仕事も増えて、毎月10脚くらいいすの注文が入りました。それをひたすら作るうち、応用して他のいすも作れるようになる。教わらなくとも自然に身に付く部分もあるんですよね」

職人歴70年を超える正則さんが、7年前に他界。その後は正壽さん一人で製造や修理を請け負っています。今まで親父がやっていたことを自分がやるわけですが、俺にできるかな」と思いながら手を動かしていると、最終的に完成するんですよ。そのとき“ああ、俺は親父から全部教わっていたんだ”と気付く。そんな場面が何度もあります

## 一つ一つの工程をコツコツと

次に、籐製品ができるまでの工程を教わりました。昔の職人は、籐の原本を割つて材料となる皮籠(ピール)を取つていましたが、それができる最後の世代が正則さん



だつたそうです。現在は皮籠をマレーシアから輸入し、日本では加工だけをおこなう分業制となりました。

籐バッグの工程は、まず皮籠を一晩煮込んで染色します。次に、皮籠表面のガラス質を薄く削り取つて平らにし、それをバッグの型に縦に巻きつけます。そして底の部分から側面、表面へと編み込んでいきます。編み上がつたら型から外して縁かがりをし、取っ手をつけたら完成です。

ラタンファニチャー堀江の人気商品である網代編みのバッグは、正則さんが開発したもの。籐製品の集大成だと正壽さんは胸を張ります。

「いすの座面に使う網代編みをバッグに応用したので、縦と横の目が詰まつてとても丈夫なんです。縁かがりも、籐むしろのかがり方と同じ手法です」

バッグをグイッと押したり広げたりする正壽さん。「竹だと割れちゃいますけど、籐はしなやかですから」

現在堀江さんが主に製作しているのは、高齢者やリハビリ用のつかまり立ち器具を年間約200個、枕を年間約150個で、バッグやその他製品は受注生産のみ。さらにさまざまな製品の修理も大切な仕事です。

## 一生ものとして愛用する

丈夫さ、軽さ、美しさ、しなやかさ……、たくさんさんの魅力を兼ね備えた籐製品。自然素材を使って手作りするため、この世に同じものは2つとありません。一生ものとして修理をしながら愛用している人も多くいます。

「修理の品が届いて製法、材料、柄などを見れば、これは親父が作った

20年前のバッグだな」とか、祖父の世代が作った70年も80年も前のいすだな」と分かれますよ。修理するためには籐をほどくと、当時の技術はこうだったのかと勉強になりますね。それから、うちで作ったベッドは骨材を丁寧に曲げて角を丸く作りますが、

バッグを手に取ると、まず拍子抜けするほど軽いことに驚きます。美しい編み目や上品な形に目を奪われ、壊れ物を扱うようしていると、

「こうしても大丈夫ですよ」と

籐製品の集大成といわれる網代編みのバッグ





素材の皮籠。年々手に入りにくくなっている



編み上がつたら「型」を外す



#### SDG's の観点からも注目を集めれる籠製品



漁業の立場の歴史が簿記10につながっている

日頃どのような手入れをすればいいのでしょうか。質問してみると、その答えは目からうろこの連続でした。「クルミや椿など、植物性の油を布につけて軽くこすってください。でも使っていれば自然に手の脂がつくから、使えば使うほど手入れは不要になるし、長持ちするんですよ。しまい込んでしまうと“性しょう”が抜けてしまう”といつて、籐の良さが損なわれてしまします」もし汚してしまったときは、水洗いすればよいのだとか。

他社では骨材を切ってネジ止めし、角が直角なものもあります。そういうのも、ネジが緩まないよう簾で巻いて修理します」。こうして修理をすれば、また20年30年と安心して使えるようになります。

「修理で預かつた製品の汚れがひどいときは、ホースで水をかけてタワシでゴシゴシすることもあります。皆さんお使いになつて、例えばチョコレートやアイスクリームがついてしまつたら、洗濯洗剤をつけて水洗いしてください。大事なのはその後です。日に当てると変形しますから、必ず陰干しでゆっくり乾かします。もし水を吸つて膨らんでしまつたら、ドライヤーで熱を当てる」と柔らかくなりますから、形を整えると元どおりになりますよ」

う。それが一番のようです。

技と魅力を伝えたい

父から受け継いだ技術を、次の世代へ伝えたい。それが正壽さんの願いです。しかし、伝承は難しくなっていると言います。大きな理由はつがあり、1つは国内の生産量が減っていることです。

「数をこなさないと技術力が上がりません。うちだけでなく、この業界は弟子が技術を磨くための仕事量

が減少しているのが実情です」  
もう1つは、素材の高騰です。  
「マレーシアのジャングルで、伐採した籐を牛に引かせて運ぶのは重労働で、その作業をする人が減っています。また、籐からバイオマスへと移行したので、輸入量が減り、値

さて、新春を迎える皆さんは、どんな日々を紡ぐ1年にしますか？

**息栖にぎわいテラスで展示**

市の観光情報や特産品を発信するコーナー「かみすミュージアム」で籐製品を展示しています。ぜひご覧ください。

## 息栖にぎわいテラスで展示

「の籠う心華や物産展を発信する  
コーナー「かみすミユージアム」で籠  
製品を展示しています。ぜひご覧く